

二〇一七年二月二日(参加者一七名)

ピエタ像籠に野の花溢れしめ はく子
 尖塔を過るま白き春の雲 はく子
 堂に満つオルガンの音の温かし はく子
 彩窓を貫く春日木椅子へと はく子
 桜の枝川面へなだれ芽吹きけり はく子
 磔像の胸に一条春日さす うつぎ
 真紅なる聖體ランプ四旬節 うつぎ
 白マスクして賛美歌を弾く乙女 うつぎ
 うららかや案内の司祭唄ひだす うつぎ
 春愁やピエタの像に佇ちてより わかば
 照り翳りなす彩窓の春日かな わかば
 尖塔の十字架光る春の天 わかば
 聖堂の木椅子の堅さ春寒し かかし
 聖堂の車椅子席春日燦 かかし
 手を堅く組みて祈れば悴まず せいじ
 尖塔のクルス仰げば風花す せいじ

草萌えに立ちし震禍のモニメント

菜々

手づくりの命のしをり温かし

菜々

静肅の札立てし堂冴返る

ひかり

彩窓に透きて揺らげる枯木影

ひかり

蒼天へ尖るクルスに風光る

満天

白梅の奥にルルドの聖母像

満天

梅ま白ルルドの聖母像もまた

よう子

接収を逃れしカリオン復活祭

よう子

瑕のあるチャペルの木椅子春寒し

よし子

絵硝子の堂に綾なす春日影

よし子

教会の庭のもの芽存問す

小袖

電車混む肩に淡雪のる人も

こすもす

聖塔の余寒の空へ尖りけり

宏虎

定例会の選

二〇一七年二月二日(参加者一七名)